

2023年9月 東京地区百貨店売上高概況

2023年10月24日

I. 概況

1. 売上高総額	1, 265億円余
2. 前年同月比（増減率）	6.4%（25か月連続プラス）
3. 店頭・非店頭の増減	店頭12.0%（92.6%）：非店頭-34.3%（7.4%） （ ）内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	12社 22店（2023年8月対比±0店）
5. 総店舗面積	743,931㎡（前年同月比：-6.3%）
6. 総従業員数	13,733人（前年同月比：-7.3%）
7. 3か月移動平均値	2-4月 14.5%、3-5月 10.7%、4-6月 9.8%、 5-7月 10.1%、6-8月 10.8%、7-9月 9.6%

【参考】2022年9月の売上高増減率は27.0%

【特徴】

- (1) 9月の東京地区は、売上高6.4%増(25か月連続)、入店客数8.3%増(9か月連続)と、共に前年実績を上回った。厳しい残暑が続いたことで秋物商材は本格稼働しなかったが、高額品やインバウンドの増勢が売上を牽引した他、各社が実施した物産展や外国展が集客増に寄与した。なお、2019年比では消費税増税前の駆け込み需要の反動から、売上高11.6%減だが、反動要因のない2018年比では6.9%増と回復基調は継続している。
- (2) 商品別では、主要5品目のうち3品目がプラスとなった。主力の衣料品(9.7%増/24か月連続)は、残暑の影響で秋物衣料は出だしが鈍かったものの、ブラウス、カットソー、ワンピースや薄手の羽織物等に動きが見られた。また長引く暑さから、日傘等の夏のアイテムも依然好調に推移した。
- (3) 身のまわり品(19.5%増/25か月連続)は、ラグジュアリーブランドで一部値上げもあったが、インバウンド需要が押し上げる形で二桁増となった他、旅行等外出機会の増加からトラベル関連も好調だった。雑貨(13.4%増/25か月連続)は、化粧品が国内外共に引き続き好調を維持し、スキンケアやメイクアップアイテムが良く動いた。
- (4) 食料品(12.0%減/2か月連続)は、前年の法人大口需要等の反動要因もありマイナスだが、手土産やお彼岸需要から菓子が好調に推移した他、敬老の日等の集いの場が増えたことで弁当・惣菜等も堅調に推移した。
- (5) 10月中間段階の商況は、気温低下に伴い秋冬物も動いてきたことから、前年比10.5%増(10/16時点)、2019年比では47.7%増で推移している。

【要因】

- (1) 営業日数増減 30.0日（前年同月比 ±0.0日）
- (2) 入店客数増減（回答店舗数で見る傾向値／前年同月比／有効回答数17店舗）
①増加した：16店、②変化なし：0店、③減少した：1店
- (3) 9月歳時記（敬老の日、彼岸）の売上（同上／有効回答数11店舗）
①増加した：3店、②変化なし：8店、③減少した：0店

東京地区百貨店 売上高速報 2023年9月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	126,550,169	100.0	6.4
紳士服・洋品	8,549,086	6.8	10.9
婦人服・洋品	20,752,164	16.4	12.1
子供服・洋品	1,682,534	1.3	0.4
その他衣料品	1,415,612	1.1	-13.6
衣 料 品	32,399,396	25.6	9.7
身のまわり品	22,550,321	17.8	19.5
化粧品	12,367,063	9.8	10.7
美術・宝飾・貴金属	16,029,136	12.7	13.6
その他雑貨	4,776,409	3.8	20.4
雑 貨	33,172,608	26.2	13.4
家 具	1,369,886	1.1	-9.5
家 電	711,814	0.6	6.0
その他家庭用品	2,997,072	2.4	0.1
家 庭 用 品	5,078,772	4.0	-1.9
生 鮮 食 品	3,298,046	2.6	-7.5
菓 子	7,312,499	5.8	-13.7
惣 菜	6,599,137	5.2	-16.6
その他食料品	9,238,632	7.3	-8.5
食 料 品	26,448,314	20.9	-12.0
食 堂 喫 茶	2,411,545	1.9	9.3
サ ー ビ ス	2,069,745	1.6	9.2
そ の 他	2,419,468	1.9	21.1

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商 品 券	1,127,957 千円	-13.2
従 業 員 数	13,733 人	-7.3
店 舗 面 積	743,931 m ²	-6.3

営 業 日 数	30.0 日	前年	30.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は衣料品、身のまわり品、雑貨がプラスとなった一方、家庭用品、食料品がマイナスとなった。その他の品目は、婦人服・洋品、化粧品が25か月連続、美術・宝飾・貴金属が4か月連続でプラスとなったが、家具が4か月ぶり、菓子が31か月ぶりにマイナスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比 (増減率)	寄与度	トレンド
総額	6.4	—	25か月連続プラス
紳士服・洋品	10.9	0.7	23か月連続プラス
婦人服・洋品	12.1	1.9	25か月連続プラス
子供服・洋品	0.4	0.0	15か月連続プラス
その他衣料品	-13.6	-0.2	5か月連続マイナス
衣料品	9.7	2.4	24か月連続プラス
身のまわり品	19.5	3.1	25か月連続プラス
化粧品	10.7	1.0	25か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	13.6	1.6	4か月連続プラス*
その他雑貨	20.4	0.7	19か月連続プラス*
雑貨	13.4	3.3	25か月連続プラス
家具	-9.5	-0.1	4か月ぶりマイナス
家電	6.0	0.0	12か月連続プラス
その他家庭用品	0.1	0.0	3か月連続プラス
家庭用品	-1.9	-0.1	9か月ぶりマイナス
生鮮食品	-7.5	-0.2	2か月連続マイナス*
菓子	-13.7	-1.0	31か月ぶりマイナス*
惣菜	-16.6	-1.1	2か月連続マイナス*
その他食料品	-8.5	-0.7	7か月連続マイナス*
食料品	-12.0	-3.0	2か月連続マイナス
食堂喫茶	9.3	0.2	19か月連続プラス
サービス	9.2	0.1	3か月ぶりプラス
その他	21.1	0.4	8か月連続プラス
商品券	-13.2	-0.1	7か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した

お問い合わせは、日本百貨店協会 橘・長柴 まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>